「女性活躍推進」でブラッシュアップ

より安全な運営を実現

東京都の商店街チャレンジ戦略支援事業にて今年度新設された「女性活躍推進事業」を活用したイベントが世田谷区で実施され、活況を呈した。主催した三軒茶屋銀座商店街振興組合理事の小山恵広報・女性部長は「運営経費、例えば保険加入の選択肢が増えるなど、より安全にイベントを開催することができた」と喜んでいる。

三軒茶屋銀座

三茶ふれあいマルシェ

（左から）松原まどかさんと小山恵理事

9月22日、三軒茶屋ふれあい広場と茶沢通りで実施された「三茶ふれあいマルシェ」には多世代が集い、ハンドメイド作品を買い求めたり、世田谷グルメに舌鼓を打ったりと、そこかしこで笑顔の輪が広がっていた。

このイベントは2016年、クリエイターの作品販売を応援しようと小山理事が立ち上げたもので、2年ぶり11回目を数える。

過去10回は実行委員会形式で主催してきたこともあって必要最小限の予算でやりくりしてきたが、今年度は風向きが変わった。「女性活躍推進事業」が新たに設けられたからだ。もともと実行委員会のメンバーは女性が主体となっていたため、関係者と協議し、理事会に商店街主催での実施を提案。承認を経てイベントがブラッシュアップされた。

助成事業となったことでプログラム数が増加。大道芸人によるパフォーマンス披露や抽選会賞品のグレードアップなど内容の幅が広がったが、それ以上にプラスとなったのは、安全対策費を十分に確保できるようになったことだという。スタッフの人数を増やし、保険で広くリスクを回避、警備員の配置も行った。小山理事は「イベントに付随する部分にも予算をしっかり配分できるようになった。スタッフもペアでシフトが組める体制作りができた。女性活躍推進事業の助成金でこうした運営ができるようになったのはすごく大きなメリット」と強調する。

イベントに必要なのは、高揚感

理想的なイベントとして小山理事が思い描くのは、出店者もスタッフも自分の役割だけでなく、参加することで自体を楽しみ、横のつながりも作れるようにすることだ。今夏、同商店街が主催した「三茶ラテンフェスティバル」のアルバイトスタッフが目を輝かせてこう、告げたという。

「ステージでは商店街の皆さんが率先して拍手して盛り上げて、心底楽しんでいるのが伝わってきた。イベントには高揚感が必要だと勉強になったし、何よりそんな雰囲気がとても楽しかった」

このスタッフは今後もぜひ手伝いたい、と言ってくれたそうだ。

小山理事の周辺にはこうした人たちが自然と集まり、手助けしてくれるという。マルシェ開催にあたっても、区内各所のイベントへ足を運んだり飲食店を巡ったりして縁をつなぎ、地方物産販売やキャラクター誘致などに結びつけてきた。「開拓だなんてめっそうもない。自分が楽しもうと思っているだけ」と謙遜するが、全力で取り組む姿勢が信頼を呼び、人を引きつけていることは確かだろう。担い手不足が叫ばれる商店街活動にはこうしたリーダーの育成が急務といえる。

今回のマルシェは天候が不安定だったものの、約2500人が来場し、成功裏に終わった。小山理事は「商店街の女性たちはアイデア豊富で実行力もある。それらを一つ一つ吸い上げていく一方で、主軸になって先導したいという人が出てきたらどんどん任せたい。いい意味で手放すことができるよう、メンバーたちに期待したいと思います」と振り返った。

㊤㊨＝イベント当日の様子。あいにくの空模様でのスタートだったが、天候が回復した午後には大にぎわいに

ロックバンド『クイーン』のフレディ・マーキュリーに扮した大道芸人（フレディーノさん）のパフォーマンスで盛り上がる

「三茶ふれあいマルシェ」の魅力とは？

商店街メンバーで出店者でもある松原まどかさん

ＥＣショップを運営しており、今回はカレースパイスのキットを中心に販売しました。

これまでもこうしたハンドメイドイベントに出向いていますが、出店者同士が横につながるケースがありそうで実はそうでもない、というのが実情です。でもこのマルシェは出店者同士もそうですし、お客様とも交流できて、イベント名通り「ふれあい」を実感できるのが特色だと思います。

知人へ声かけしやすいのも非常に魅力的。買い物だけでなく、キャラクターにも会えるし、キッチンカーも来るし、パフォーマンスも見られるからちょっと立ち寄ってみて、って呼びかけられる。そんな程よいミックス加減が〝三茶らしさ〟をとても表していると感じています。

都心に「かかし」

自分たちも楽しむ祭り50回

みんなが足を止める出来栄えの「かかしのカブ（『ハウルの動く城』）」が優勝作品に

東麻布商店会

ステージカーの出し物を見守るスタッフの横にも「かかし」が

田んぼで稲穂を守る「かかし」が都心の商店会に現れた――東麻布商店会（港区）が10月4・5日に開催した「第50回かかしまつり」での光景だ。

〝東麻布〟でなぜ「かかし」？

それはかつて商店会に東北方面から上京し、住み込みで働く人が多くいたことに由来する。彼らの郷愁に寄り添い、励ましたい、そのために何か一緒に祭りを楽しみたい――という思いから、山形県のかかし祭りを参考に自分たちも楽しむお祭りとして始めたものが、50回を数えるほどになった。

コロナ禍では「まつり」と表すると人が集まってしまうからと「ミニミニ縁日」などとして一日だけ催していたが、今年は節目の50回目ということもあり、「かかしまつり」に戻して開催。人気のグルメ屋台も毎年出店してくれる山形県・舟形町の名産品の即売所も健在だった。

そして5年ぶりの登場がステージカー。おお笑いライブやダンスショー、カラオケ大会などが2日にわたって開かれた。

かかしも慣例通りコンクール形式で今年は約1週間〝麻布い～すと通り〟に展示。数は10体と小規模だが、いずれも力作揃い。展示期間中は道行く人の目を楽しませ、5日には表彰式が行われた。

すし店を営む水野健（たけし）商店会会長は「土曜（5日）は雨だったので人出を心配したが、多くのお客さんが来てくれてよかった。知った顔も多く、うれしかった」と今年のまつりを振り返った。

November 11 イベント December 12 ピックアップ

【TOKYO LIGHTS 2024】TOKYO LIGHTS 2024実行委員会。11月7～10日、明治神宮外苑聖徳記念絵画館総合球技場軟式球場。光のエンターテインメントエリア午後5～9時。飲食エリア午後4時開場。プロジェクションマッピング国際大会歴代受賞作品と招待作品の特別上映あり（午後5時30分～8時30分）。チケットは公式サイトにて事前購入のこと。

【2024年品川区商連大商業まつり】品川区商店街連合会。11月23日、午前10時～午後4時。品川区立中小企業センター、しながわ中央公園。区内商店街の「人・物・店」をアピール。出店は約60ブース。ステージイベント、FMしながわの公開放送も行う。子どもを対象に郵便局の仕事体験ができる「ワクワク!!こども郵便局」を同時開催する。参加は事前予約制、当日予約もあり（整理券配布）。

令和6年度　商店街ステップアップ応援事業

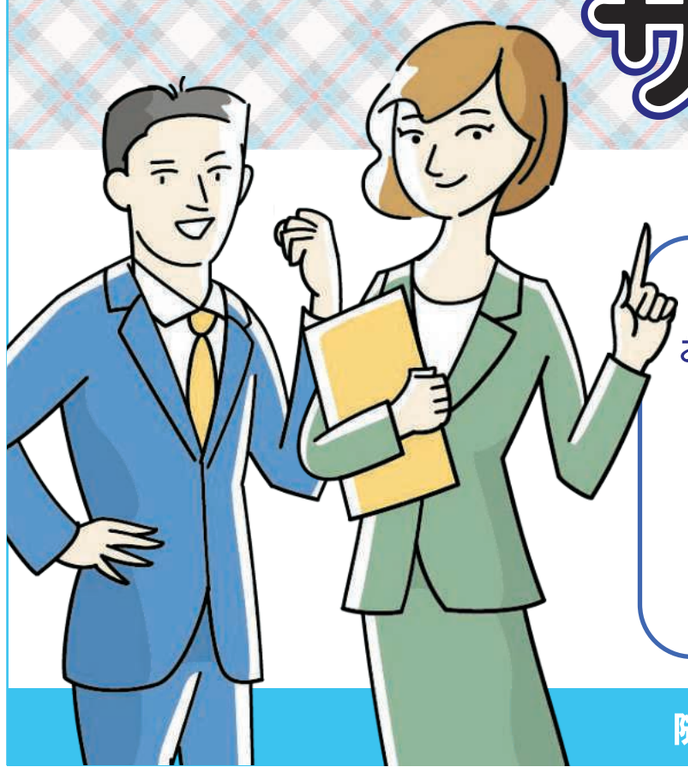
TOSHINREN-information

専門家を派遣して

商店街の活性化サポートします！

たとえば下記のような相談に対して支援・アドバイスいたします

派遣費用 無料



支援のながれ

お申し込み（WEBにてご案内）▶ 事前打ち合わせ ▶ 日程調整 専門家手配 ▶ 専門家による支援の実施

専門家の派遣は一つの相談に対して原則５回、最大10回までです。

●売上アップやにぎわい増につながるイベント
●商店街の会計処理・補助金などの資金周り
●キャッシュレス・ホームページ導入など IT化
●多言語化・おもてなしなどインバウンド対応
●障がい者・高齢者用サイン表示や休憩スペースの設置
●加入促進・若手の活躍など組織運営
●商店街の中長期的なありかた・ビジョン
●来街者に安心・安全な商店街づくり
●地域と連携した、街の活性化への景観づくり
●再エネ・省エネ

随時受け付け中 ➡ 東京都商店街振興組合連合会/ステップアップ事務局　☎03-3547-3787